

要検討項目の存在実態調査について（報告）

1. 調査目的

要検討項目のうち目標値が設定されていない項目の中には、近年の毒性評価に係る知見の蓄積により、厚生労働科学研究「化学物質等の検出状況を踏まえた水道水質管理のための総合研究」（令和元年度～令和3年度 研究代表者：松井佳彦 北海道大学教授）において目標値案の検討が進んでいるものがある。これらの物質の目標値の設定の参考とするため、水道水の原水及び給水栓水における存在実態を把握する。

2. 調査対象物質

	番号	物質名	目標値案 ^{注1)}
①	要-06	アクリル酸	1 mg/L
②	要-12	酢酸ビニル	0.6 mg/L
③	要-21	ヒドラジン	0.005 mg/L
④	要-23	1,3-ブタジエン	0.03 mg/L ^{注2)}
⑤	要-28	ブロモクロロ酢酸	0.01 mg/L
⑥	要-29	ブロモジクロロ酢酸	0.01 mg/L

注 1) 目標値案は有効数字 1 桁で表示した。目標値案の導出の考え方や有効数字の取扱いについては、今後の検討会で検討することとなるため、目標値が変更となる場合や暫定値となる場合がある。

注 2) 1,3-ブタジエンと同様に要検討項目に位置付けられている 1,2-ブタジエンについては、毒性評価情報が得られなかったことから目標値案は導出されていないが、参考のため存在実態調査の対象物質とする。

3. 調査対象浄水場数等

調査対象物質①～④：全国 14 浄水場の原水及び給水栓水

対象物質が過去の水環境モニタリングにおいて検出された地点や対象物質について特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR 法）に基づき公共用水域への排出を届け出た事業所のうち、一定量以上排出した事業所の下流に位置する浄水場から選択

調査対象物質⑤～⑥：全国 21 地点の給水栓水

給水栓水（浄水）の総トリハロメタン濃度が比較的高く、臭素化トリハロメタンが検出されている浄水場から選択

4. 採水時期

1 回目：冬季低水温期（令和 4 年 1 月）

2 回目：夏季高水温期（令和 4 年 7 月）

5. 検査方法

対象化学物質	分析方法	定量下限値 (mg/L)
アクリル酸	LC-MS/MS 法	0.005 mg/L
酢酸ビニル	パージトラップ-GC-MS 法	0.0001 mg/L
ヒドラジン	誘導体化-LC-MS/MS 法	0.0005 mg/L
1,2-ブタジエン	パージトラップ-GC-MS 法	0.0001 mg/L
1,3-ブタジエン	パージトラップ-GC-MS 法	0.0001 mg/L
ブロモクロロ酢酸	LC-MS/MS 法	0.0010 mg/L
ブロモジクロロ酢酸	LC-MS/MS 法	0.0010 mg/L

6. 検査結果

(1) 調査対象物質①～④

全て定量下限値未満であった。

(2) 調査対象物質⑤～⑥

令和4年1月

	ブロモクロロ酢酸	ブロモジクロロ酢酸
100%値超	0	0
50%値超	0	0
10%値超	20	20
検査地点数	21	21

令和4年7月

	ブロモクロロ酢酸	ブロモジクロロ酢酸
100%値超	0	0
50%値超	2	1
10%値超	13	17
検査地点数	21	21

7. 今後の対応

対象物質⑤～⑥については、目標値案の50%値を超える地点が確認された。これらの物質の低減策等を調査し、厚生労働科学研究の研究結果も踏まえ、目標値の設定について本検討会にお諮りする。